

久しぶりの休息

昨年の10月以来7か月振りに小生の大好きな趣味のスキューバダイビングに6月7日～8日の1泊2日の日程で本州最南端の串本に行ってきました。

前日の天気予報は曇りもしくは多少の雨でしたが、小生の日頃の行いが良いのか解りませんが2日とも天候は梅雨にしては凄く良かったと思います。海水温はまだエルニーニョの感じ無い平年並みの22度でした。風もなく海は凪でした。ただし沖合の外洋ポイントはインドネシアバリ島の事故以来凄く慎重になっているので行きたかったポイント浅地から北の根に変更されました。スポーツはスリルが一番大事ではなく安全が一番大事なスポーツだと現地インストラクターは言っていました。

写真は過去5年間この時期にダイビングに出かけている友人の西村様です。彼は建築学科の大学院の修士課程を卒業後社会福祉法人の関係の仕事に携わっています。小生と同じ人間関係のストレスを年中感じていてその解消が唯一同じ趣味のスキューバダイビングです。



海の中はいつもと変わらず我々を含むダイバーを歓迎してくれたと思います。

珍しいジョーフィッシュが頭を出しています。

もっと気軽に第 100 号に広告を出してください。(別紙・ゲラ参考)

平成 18 年 4 月 25 日に産声を上げた服部新聞ですが、ようやく 8 年目にして新聞らしくなったと思うのは、自己満足でしょうか。第一号を書き始めた動機は何とか材木屋の閉塞状況を脱出したいと思う清らかな心で書きましたが、当時の記事を今見ると全く何を言っているのか自分でも解りませんが、記念する 100 号到達の結果を見ればまずまずの出だしだったと思います。(記念の第 1 号↓)

ところで材木屋と言う職業は人の真似ばかりする業界です。以前はこの考え方が主流でした。

一般の材木屋のやり方は人が販売している単価より安く売りに行くのが主な仕事でした。確かに木材資源が有り余っている時代はこれで良かったと思いますが、大事な事を何点か忘れていました。以下に書きます。

- 1、ホームセンターを甘く見た。
- 2、プレハブメーカーを甘く見た。
- 3、幾らでも材木は有ると思った。
- 4、住まいの工法が大きく変化した。
- 5、森を知らない材木屋が多い。
- 6、木を知らない材木屋が多い。
- 7、素晴らしい国内の人工林の活用。
- 8、激化している世界的の資源の獲得競争。
- 9、違法伐採の厳しい取り締まり。
- 10、成熟社会に合わせた物作りが望まれて
いるが未だ実現していない。

まだまだ多くの課題が有ると思います。その解決手段と申しましうか方法は有ると思います

が、そう簡単に理想『自然の恵みで有る人間の健康に一番優しい木材が適正価格で使われる世の中。その住まい作りに参加する者達(建築士さんから大工・左官職人も含めて)も正当な対価に対して正当な報酬で報われる社会。しかも品質の競争は絶えず続く健全な成熟社会を構成する。』は簡単に実現できないと思います。

ところで小生が以前、建築士 2 名・工務店 1 名・家具メーカー 1 名・デザイナー 1 名・小生材木屋 1 名合計 6 名で作った組織(LLP・正しい住まい作りを手助けする団体)は結果的に失敗『立場的に目指す理想は同じでも、お金に対する考え方の違いで小生から申し立て解散しました。発足から 3 年目に成果が出なかった。これ以上やっても時間の無駄だと思いました。小生が持っているマンションの 1 室を無償で 2 年間貸しました。』でしたが、この考え方・方向は間違っていないかと思えます。そうかと言って小生が仲間を募っているのでは有りません。

あくまで素晴らしい日本の伝統文化の新しい住まい作りの新しい方法を皆様と一緒に考える手段が今回の企画です。この程度の企画では物足りない事でないかと言われる方がいらっしゃると思いますが、小生の過去の失敗から学ぶと今実行出来る唯一の方法だと思っています。

この広告が皆様の営業にすぐ結びつくとは思いませんが、しかし何もしなくては、衰退する材木屋と同じ轍を踏むだけでは有りませんか。

又現在の服部新聞の送り先はメール・郵便合わせて 2000 人いらっしゃいます。その内 300 人はエンドユーザーの方達です。その方達は趣味で木の物作り等に励んでいて、木に対しての愛着は凄いです。その方達の為は将来クライアントになる可能性の有る方々です。是非積極的に売り込んで頂きたいと思えます。

服部新聞 (毎月 25 日発行) 平成 18 年 4 月 25 日 第一号
今月の出来事
三重目の息子が幼稚園の年長になり、長男が無事高校に進学出来た事を、亡くなった父親を初め、ご先祖様に感謝しています。

仕事は、広葉樹原木のシーズンは終了しました。 本年はタモ材の優良原木が本当に高いシーズンでした。ナラの原木とタモの原木は、どちらかと言えば、従来はナラの方が若干、値段は高いのですが、全く逆の本年でした。

これからはアラスカ材スプルース原木のシーズンが始まります。去年同様、スプルース原木の良材に、選り会える『自分の目利きで良材原木を探し、製材するのが、わくわくする』事を、楽しみにしています。

3月に戸建の居室にハードメープルの床材を納めさせて頂きましたが、設計士の評価と、お施主様の声とが全く違うのには、びっくりしました。お施主様はホテル経営をしている方で、結構、デザインにも精通している方です。弊社材のハードメープルの色の良さ、目合いの細かさ等、非常に満足しています。『ご主人様、奥様からもお褒め頂きました』御られもって頭垂って、皆様に『木』の良さを一層アピールしなければいけないと誓いました。



政府が四月一日に発表した、グリーン購入法に対して、木材業界は、割と楽観している様に、見えますが、グローバル化の脅威を覚める様になりはしないかと考えています。インドネシア材の輸出の規制とか、ロシア材の盗伐の問題等、難題が山積しているのに、何故か木材業者は団結して、事に当たらないのは、本当に不思議な業界です。

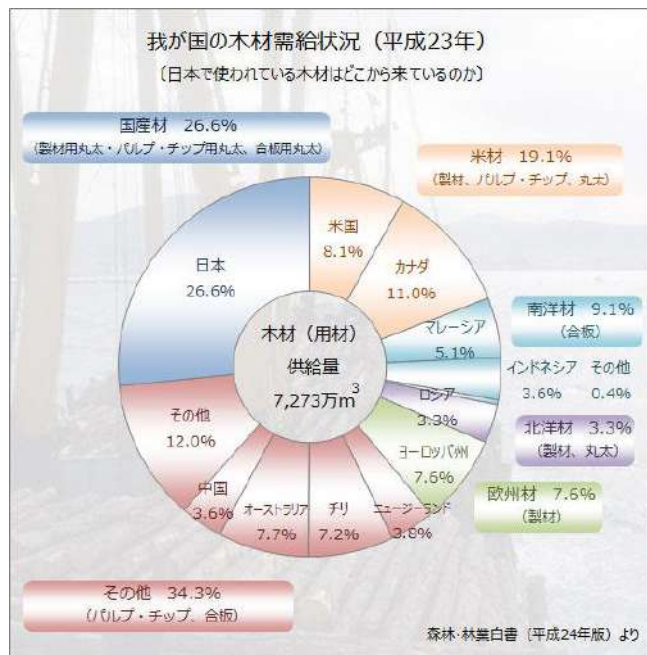
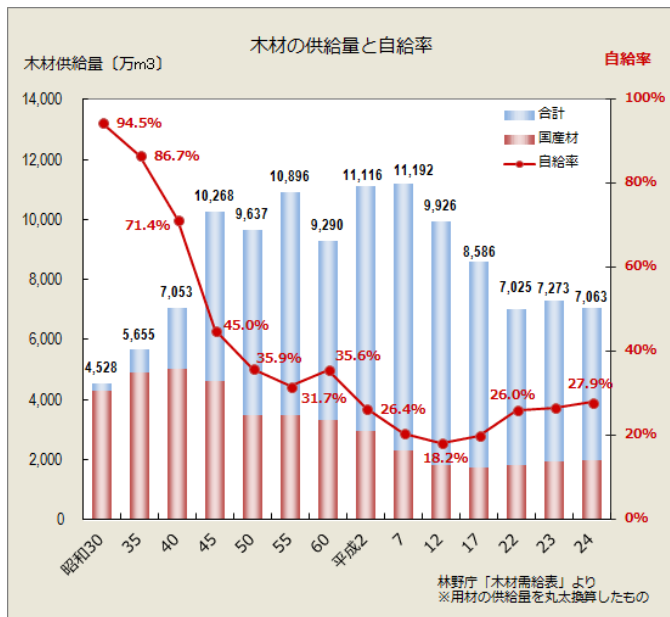
私事ですが、久しぶりに、ダイビングに白浜に行ってきた。何十本も白浜でダイビングをしています。殆どのポイントはダイブしましたが、最後行きかけたポイントが『カスミの根』であります。そこには世界中でもこの付近しかない(オオカワリインゲンヤク)が根にびっしり張り付いているのです。深度 38 メーター付近にいます。しかし、そこは、別世界です。水の美しさは森が、健全性を表しています。ダイビングすると、人は、自然の恵みのお陰で、生活させてもらっている事を、本当に痛感します。



木を使わないで下さい。

こんなショックな事を書いて生意気だと思われる方が大勢いると思います。しかし極端な考え方を皆様にお伝えしなければならない状況に近い将来なる可能性が有るのです。

現在の日本の国内の木材需要は以下の様になっています。この資料は林野庁のページからお借りしました。



日本国内の木材の受給は高度経済成長時代以前、国内産木材資源で賄えていて、それ以降賄えなくなってきていると上の表は物語っています。確かにそのとおりですが、何故賄えなくなったのかを具体的に考えた方はそんなに多くないと思います。それを解いていくと小生が何を言いたいのか解ると思います。

- 1、布団からベットの生活に変化して、畳の部屋から変化した。
- 2、欧米流の食生活に変化し、食べ方が変わった。ちゃぶ台からテーブルに変化した。
- 3、家族一人ずつの部屋が有った方が良いと言う考え方の台頭で住まいの部屋作りが劇的に変化した。
- 4、住まい作りの大きな流れが工業化の住まい作りに変化した。

まだまだ日本国内の需要サイド側の理由は有ると思いますが、とりあえず
今度は木材の受給の事を書きます。

- 1、昭和 29 年に襲来した洞爺丸台風の際に日本全国で膨大な風倒木が出た。その被害が甚大で有った。又当時木材消費が旺盛に増える時代に突入した。
- 2、木材大量消費時代に対応する林業政策が出来なかった。成長の遅い広葉樹原木を伐採したのち針葉樹ばかり植林した為に広葉樹原料が不足し針葉樹原料の価格が大幅に下がった。
- 3、昭和 60 年位から日本国内も計画伐採を施し、天然林の保護育成に取り組んではいるが、広葉樹の森を復活させて循環型森林に日本国内の森林を全て転換するのはまだ少なくとも 100 年は掛る。
- 4、日本以外の外国に優良な品質の木材は残っているが、世界的に天然資源の獲得競争が今後拍車を掛けて入手が厳しくなるので当然価格は上がる。

自然環境所謂森林から日本人を見ると多分以下の様に言っていると小生は思います。

- 1、生半可な設計『森林から見た場合 30 年位でつぶす今の日本の住まい作りには優良な木材は使ってほしくないと言っていると小生は思います。』
- 2、適材・適所とは何かを徹底的に考えて欲しい。ヒノキの管柱を例に挙げます。和室の無い家は森林の敵で有る。ヒノキの立木を伐採した時、元一番玉は無節材になる。これ『無節材を長押・廻縁・柱等の日本家屋の内装用材に』を使って頂かないと森林管理・経営は成り立たない。

以上凄く強烈な小生の話ですが、この話は真実です。本当に木に優しい設計をお願いします。